

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1974 号

Rectal mucosal/submucosal biopsy under general anesthesia ensures optimum diagnosis of bowel motility disorders

(正確な消化管運動障害の診断の為の直腸粘膜/粘膜下生検の際の工夫)

今泉 孝章 (いまいずみ たかあき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文では、吸引直腸粘膜/粘膜下生検 (Suction rectal biopsy: SRBx) の臨床上的問題点を報告、その解決法を述べている。SRBx は全身麻酔を行わないで施行するため、Hirschsprung 病やその類縁疾患などの診断に必要な検体量を採取できないことが少なからずあり、出血などの重篤な合併症を来たしうる。その解決法として、初めて全身麻酔下楔状直腸粘膜/粘膜下生検 (Rectal mucosal/submucosal biopsy: 全身麻酔下楔状 RMSBx) を行い、その有用性について検討した。その結果、全身麻酔の費用はかかるものの、全例で診断に十分な検体を得ることができかつ合併症を認めなかったことから、全身麻酔下楔状 RMSBx の安全性、および診断の確実性を示した。本論文は、上記の点において優れており、臨床的に意義のある論文であると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。